	M	inami	Kyush	u Univ	ersity	Syllabus	3		
シラバス年度	2025年度	開講キ	ャンパス	都城キャン	パス	開設学科	環境園芸学科/	´管理栄養学科/食 科学科	食品開発
科目名称	蔬菜園芸学特論	I					授業形態		
科目コード	610600	単位数	2単位	配当学年		実務経験教	員	アクティブ ラーニング	
担当教員名	陳 蘭庄		,			•	•	ICT活 用	
授業概要	蔬菜園芸学特論 I と II では、野菜を学問として取り上げ、さらに科学的な角度から解析し、野菜の栽培や育種にまつわる最新の総括や 仮説をはじめ、最新のパイオテクノロジーを用いたメカニズムの解明、有用遺伝子のクローニング及びその機能解析などについて、重要な学術論文を引用しながら解説することを目的としている。この講義の内容は、これまで本研究室で実際に行ってきている研究内容 なので、これまでに得られた研究成果を発表してきた学会要旨や学術論文を交えながら、グループ討議や、実験の現場で操作の手本を 見せたり、スキルを覚えさせたりすることを行う。								
関連する科目	特にありません。	このあと、	蔬菜園芸学特	論Ⅱを学習する。	ことを勧める。				
授業の進め方 と方法	パワーポイント	や学術論文等	₹を使って、一;	緒に議論する形	で、受講生にも受	受動的ではなく、 頭	『を動かして教員	との双方向授業を	行う。
授業計画	明。 第5回〜第8回: 第 In vitroレベル・ 第9回〜第12回: 分子生物学的手	推種胚崩壊メ 維種胚筋崩壊メ がの地域を を を 発種に を 発種に を を を を と の に と め に と と と に る に る に る に る に る に る に る に る	カニズムの解 と体細胞雑種 での解説:また 様々な検定法よ 法を解説する びレポート作	明;細胞レベル ⁻ 個体の作出;植 [‡] 、そのうえ、さる よび育種でのバ ;バイオマーカ-	勿組織培養手法を まざまな培養培地 イオマーカーの −が育種での応月	を発生の生殖様式のを用いて、雑種胚を と用いて、雑種胚を ととおいまな種類の 利用:雑種解説する 利についかにまとめ	崩壊前に摘出す を用いた雑種胚 司定には、形態的	るためのステージ の培養技術の解診 内比較、倍数性比	ジ同定と 说。 較および
授業の到達目標		果に対する考	察・評価など	、研究論文の書		って、研究計画の立 車のノウハウを活用			
学位授与の方針 (DP)との関連	造的に活用できん 性・国際性-(2)	る。/2. 人間 課題を広い視	力・社会性・ 野で捉え、客	国際性-(1)豊かれ 観的に評価ができ	な個性を発揮して きる。 / 2. 人間ナ	. 知識・技能と教養 に課題を発見し、探 り・社会性・国際性 なる文化を理解でき	求することがで -(3)主体性を持	きる。/2. 人間かって多様な人々と	・社会

授業時間外学習【予習】	事前に配った資料やプリント、指定した教科書または参考書、本授業とかかわりのある新聞記事や科学雑誌等をもって、予習すること。また、授業の内容について、分かったことやわからなかったことをはっきりさせ、配られた資料やノートを再点検してわからなかったことを自ら解決する。それでもわからない場合、図書館にて関連図書を調べたりインターネットを使ったりして解けるようにする。どうしてもわからない時は、先生に直接聞いてみる。わからなかったことを貯めることなく、すぐに解決することを勧める。事前事後合わせて1時間程度が必要である。
授業時間外学習【復習】	また、授業の内容について、分かったことやわからなかったことをはっきりさせ、配られた資料やノートを再点検してわからなかったことを自ら解決する。それでもわからない場合、図書館にて関連図書を調べたりインターネットを使ったりして解けるようにする。どうしてもわからない時は、先生に直接聞いてみる。わからなかったことを貯めることなく、すぐに解決することを勧める。事前事後合わせて1時間程度が必要である。
課題に対する フィードバック	基本的にその都度、指導を行う。それで解決できない問題については、参考になる文献等を読ませて次の授業の中で回答してもらう。
評価方法・基準	授業への取組み姿勢と理解度(40%)、最終レポートの完成度(60%)を総合的に評価する。
テキスト	特になし。
参考書	随時、引用論文を配る。
備考	